

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和⁸年 2 月 2 日

福岡市長 高島 宗一郎 殿

提出者

住 所 福岡市中央区大名1-9-24MotherHouse大名3F

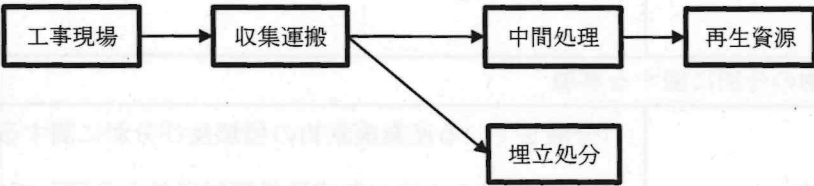
氏 名 株式会社ブランギア 代表取締役CEO 香田大介
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 092-791-8553

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社ブランギア
事業場の所在地	福岡市内事業場
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

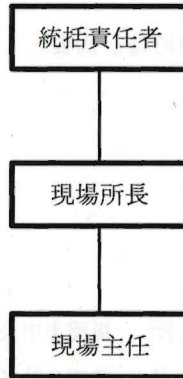
①事業の種類	総合工事業
②事業の規模	40億円
③従業員数	23人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	

(日本工業規格 A列4番)



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

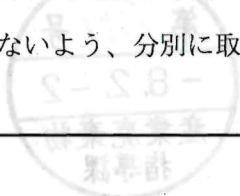


産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】別紙の通り		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 廃棄物の排出量が抑制できる工法の提案を行っている		
②計画	【目標】別紙の通り		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 廃棄物の排出量が抑制出来る工法の提案を行う。 ・ 梱包材を簡素化する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 建設リサイクル法の特定建設資材以外にも分別している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ なるべく混合廃棄物を排出しないよう、分別に取り組む。



自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

第1章 緒言

第1節 研究の目的		研究の目的を述べ、その重要性を説明する。	研究の目的
第2節 研究の意義		本研究が従来と異なる点や、社会に与える影響を説明する。	
第3節 研究の範囲		本研究が対象とする範囲や、除外する内容を説明する。	
第4節 研究の方法		本研究で採用した研究方法や、データ収集の方法を説明する。	
第5節 研究の構成		本研究の構成や、各章の概要を説明する。	研究の構成
第6節 研究の限界		本研究の限界や、今後の研究課題を説明する。	
第7節 研究の貢献		本研究が学術界や社会に与える貢献を説明する。	
第8節 研究の結論		本研究の結論や、今後の展望を説明する。	

第2章 研究の背景

第1節 研究の動機		本研究の動機や、研究の必要性を説明する。	研究の動機
第2節 研究の経緯		本研究の経緯や、研究の過程を説明する。	
第3節 研究の現状		本研究の現状や、研究の進捗状況を説明する。	
第4節 研究の展望		本研究の展望や、今後の研究課題を説明する。	
第5節 研究の意義		本研究の意義や、社会に与える影響を説明する。	研究の意義
第6節 研究の範囲		本研究が対象とする範囲や、除外する内容を説明する。	
第7節 研究の方法		本研究で採用した研究方法や、データ収集の方法を説明する。	
第8節 研究の結論		本研究の結論や、今後の展望を説明する。	

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】別紙の通り	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	(今後実施する予定の取組)	
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

